開発アプリが世界大会で特別賞を受賞

京都外国語大学

京都外国語大学（京都市）の外国語学部英米語学科・石川保茂教授らが開発したeラーニング支援アプリケーション「MALO」が「IMS Global Impact Awards 2018」で特別賞を受賞し、アメリカ合衆国メリーランド州で5月24日（現地時間）に開かれた同賞の表彰式に石川教授らが参加した。

同賞は、eラーニング技術の国際標準化を進める非営利団体であるIMS Global Learning Consortiumが主催する表彰制度で、教育分野でのテクノロジーの利活用に多大な貢献をした優れた事案に対して贈られる。

今回、特別賞を受賞した協調学習支援アプリ「MALO」は、インターネットを利用した学習形態であるeラーニングを促進するために開発された。スマートフォンやタブレットにも対応可能な点や、メッセージの送受信機能・単語帳機能が付加されている点などが特徴だ。研究メンバーによる約1年間にわたる効果検証では、授業外で複数の学生による協調学習が進んだことが確認されたという。



授賞式に出席し、笑顔を見せる共同研究メンバー

石川教授は特別賞の受賞にあたって「特別賞を受賞できたことは大変嬉しい。この受賞を励みに、授業内外で学生と教員が学び合う学習環境の充実にさらに寄与したい」と、意気込みを語った。